

| | | | | | | | | | | | |
|--|------------|--|-----|--------|------|----------------|------|----------------|------------|------|-----|
| 科目ナンバリング | | | | | | | | | | | |
| 授業科目名 <英訳> | | 外国文献研究（文・英）A-E1 Readings in Humanities and Social Sciences (Letters, English)A-E1 | | | | 担当者所属 職名・氏名 | | 文学研究科 教授 横地 優子 | | | |
| 群 | 人文・社会科学科目群 | | | 分野(分類) | | 外国文献研究 | | | 使用言語 | 日本語 | |
| 旧群 | C群 | 単位数 | 2単位 | | 週コマ数 | 1コマ | | 授業形態 | 演習（対面授業科目） | | |
| 開講年度・ 開講期 | 2024・前期 | | 曜時限 | 火3 | | | 配当学年 | 2回生以上 | | 対象学生 | 文系向 |
| 【授業の概要・目的】 | | | | | | | | | | | |
| 古代インドで長い時間をかけて編纂された「マハーバーラタ」は、世界でもっとも長大な叙事詩として知られている。この叙事詩はクル族のいとこ間の王位継承戦争を扱ったものであるが、単なる戦記物または英雄物語ではなく、戦うことへの疑問や戦士の倫理と不殺生を説く倫理との対立など、現代にも通じる多くのテーマを含むため、現代でもインドだけではなく、世界各地で新たに脚色され演じられている。この授業では、このマハーバーラタの語り（Narrative）とジェンダーに焦点をあてた論文集『Gender and Narrative in the Mahabharata』からいくつかの論文を取りあげて講読することで、学術的な英語表現に親しむとともに、古典作品へのアプローチの仕方の一端を学ぶ。 | | | | | | | | | | | |
| 【到達目標】 | | | | | | | | | | | |
| 学術的な英語表現に慣れるとともに、古典的な作品の研究方法を学ぶ。また内容要約の練習を通じて、要点を抑えた英語論文の読み方を身につける。 | | | | | | | | | | | |
| 【授業計画と内容】 | | | | | | | | | | | |
| 第1～2回 イントロダクション マハーバーラタの内容を概説する。また教科書とするテキストのIntroductionを講師が講読し、本テキストの内容と目的を解説する。 第2回～第14回 教科書とするGender and Narravie in the Mahabharataからいくつかの論文を取りあげ講読する。1回10頁程度を約3人の担当者が分担して和訳する形式で進める予定である。また、毎回理解度を問うため、講読部分の内容要約を課す。 第15回 定期試験 第16回 フィードバック | | | | | | | | | | | |
| 【履修要件】 | | | | | | | | | | | |
| 自分が専門にしようとする学問領域について、ある程度具体的なイメージと意欲を持っていることが望まれるので、2回生以上を履修の条件とします。 | | | | | | | | | | | |
| 【成績評価の方法・観点】 | | | | | | | | | | | |
| 授業中に最低1回の和訳を担当することは必修。和訳担当(30%)、定期試験(30%)、授業への参加度・理解度（授業中に行う内容要約、授業内での発言等、40%）を総合して評価する。 | | | | | | | | | | | |
| 【教科書】 | | | | | | | | | | | |
| Brodbeck, Simon and Brian Black (eds.) 『Gender and Narrative in the Mahabharata』（Routledge）ISBN: 978-0-415-41540-8 授業中に講読する部分については、随時コピーを配布します。 | | | | | | | | | | | |
| ----- 外国文献研究（文・英）A-E1(2)へ続く ----- | | | | | | | | | | | |

外国文献研究（文・英）A-E1(2)

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

毎回の予習が必要です。和訳の担当者となった者は、特に時間をかけた準備が必要となりますが、担当ではない部分についても授業中に課される内容要約を行うためには十分に内容を把握していることが必要です。

[その他（オフィスアワー等）]

履修者全員に最低1回は講読を担当してもらうため、40人程度を上限とします。それを超える履修希望者がある場合、次の順位で選考しますので、初回には必ず出席してください。1．文学部東洋文献文化学系の学生 2．文学部のその他の系の学生 3．他学部生。